俳　句

1年目 ステップ5

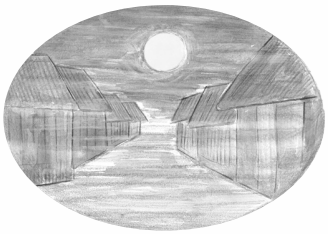
音声はこちら

一つ脱いで　後に負いぬ　衣がえ

松尾芭蕉

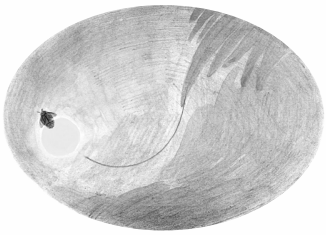
市中は　物のにおいや　夏の月

野沢凡兆



草の葉を　落つるより飛ぶ　蛍かな

松尾芭蕉



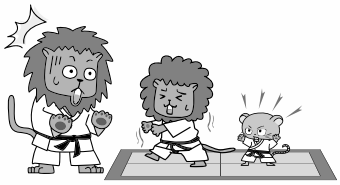
曇天や　蝮生き居る　壜の中

芥川龍之介

音声はこちら

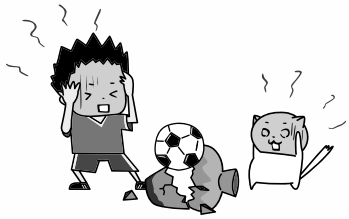
顔に泥をぬる

人の名誉を傷つけたり恥をかかせること。



頭を抱える

どうしたらよいのかわからなくて困っている様子。

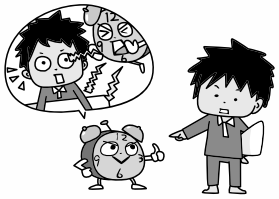


腰が低い

他人に対してへりくだった態度で接する様子。

念を押す

まちがいがないように相手に十分に確かめる。



高をくくる

たいしたことはないだろうと見くびる。

音声はこちら

《体言と用言》

体言は　主語となる　名詞　代名詞　この二つ
用言は　述語となる　動詞　形容詞　形容動詞

動詞は　動作を表す　うごきの言葉
形容詞　形容動詞は　性質や状態を表すね

用言は　単語の形が　変化する
その形を　活用形
未然(形)　連用(形)　終止(形)
連体(形)　仮定(形)　命令(形)
の六つです

行かない　行きます　行く　行く時　行けば　行け
飛ばない　飛びます　飛ぶ　飛ぶ時　飛べば　飛べ

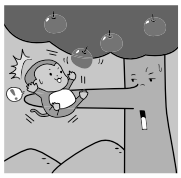
体言は
主語になる
人やものを表す言葉が多いね

用言は
述語になる
下に続く言葉で、単語の形がかわるね

音声はこちら

猿も木から落ちる

その道の達人でも失敗することもあるということ。



郷に入っては郷に従え

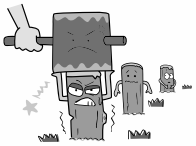
新しい環境に移ったらそこの風習に従うのが良いということ。

百聞は一見にしかず

人の話を何度も聞くよりも、一度自分の目で確かめた方が良いということ。

出る杭は打たれる

でしゃばる者や頭角を現す優秀な者は、他から妨げられたりするということ。



大は小を兼ねる

大きいものは小さいものの代わりに使うこともできるということ。

帯に短し襷に長し

中途半端でどちらの役にもたたないことのたとえ。

音声はこちら

花の色は
うつりにけりな いたづらに
わが身世にふる ながめせし間に
（小野小町）

これやこの
行くも帰るも 別れては
知るも知らぬも あふ坂の関
（蟬丸）